

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200080		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームきら		
所在地	愛知県西尾市吉良町吉田山中6番地1		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2393200080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺に広がる田園と住宅、中規模のショッピングセンター、南方面には三河湾と、とてもどこかであり、季節感が感じられ、とても立地条件に恵まれた施設です。施設内は当法人のこだわりである木の香りとぬくもりを感じることができ、畳が敷かれた廊下はすごく癒されます。施設自体がとても懐かしく感じられる作りとなっています。また、近くには国宝のお寺もあり、吉良家がこの土地の収めていたことから歴史上でも有名な西尾市吉良町です。ここ3年、祭りや地域の行事の中止が続き、GHとしての地域の関わりがなかなか持てず交流が出来ない状況が続いています。とてももどかしいですが、我々職員は、「今だからこそできるより良いサービスの提供」を心掛け、日常を明るく元気に利用者様と向き合い、日々楽しく生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ感染症感染予防策として、今年度電話ヒアリングを実施した。】
 法人理念の「こころのびのび からだいきいき いのちきらきら」の実現のため、「利用者主体」の支援を追求している。利用者の希望や、生活リズムを維持するために「どうしたらできるのか」を考えて、取り組む体制が根付いている。職員が業務の見直しを図り、利用者の希望を実現している事例もあり、職員の意識は高く、力量を最大限に発揮している。
 コロナ禍で、職員は日々の過ごし方を見直し、接する機会や会話を増やして「寄り添う介護」の支援が行われている。家族アンケートにも、「本人、家族に寄り添って頂ける」との言葉がある。家族のような会話が生まれ、利用者・家族の笑顔も増えており、「利用者主体」が貫かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころのびのび からだいきいき いのちきらきら」という理念のもと、毎日を大切に過ごしていただけるサービス、ケアの実践に心掛けている。	法人理念をホーム理念として掲示し、取り組んでいる。法人3ホーム合同で、毎年の目標を掲げ、毎月、3ホーム合同の職員グループミーティングを行っている。各管理者も参加しており、毎月振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ制限化の為、今年度もGH本来の地域との関りが難しく、職員が地域の店で買い物をしたり、回覧が来た時に町内会の方とお話する程度。	地域行事は中止となり、回覧板を届けに来た時に地域住人と挨拶を交わしたり、日課の散歩で会釈を交わしている。町内会長と電話で連絡を取ったり、運営推進会議の議事録を送付したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も外出自粛制限で地域住民の方と会う機会も作れず地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議も利用者や職員のみでの参加としており、関係各所に議事録を郵送としている。	市・地域包括支援センター・町内会長・民生委員児童委員・介護相談員・利用者・家族のメンバーで会議をしていたが、コロナ禍で現在は書面開催となっている。議事録をメンバーに送付している。	議事録を送付する時に、メンバーに意見を出してもらえるよう、返信の意見書を加えるなどの工夫をし、多くの意見を頂いて、サービス向上に活かしてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各申請時や相談時等に連絡を取らせてもらっている。また、運営推進会議議事録で事業所状況の報告をしている。	介護相談員の受け入れ再開や、市の長寿課の窓口で議事録を持参する機会に、担当者や情報交換をするなど、良好な協力関係を築いている。グループホーム部会のZoom会議に参加し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の法人内の学習会が継続している。また事業所内に「身体拘束適正化委員会」を設置。3か月に1度委員会を開き、話し合いの場を設けている。玄関施錠は夜間のみで日中は施錠なしで対応している。	法人内の勉強会や、身体拘束適正委員会の内部研修を行い、管理者・職員は拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合は、家族から同意書を取り、検討を繰り返している。スピーチロックについても気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の法人内の研修を実施、各自が学ぶ機会を設けており、日々職員は意識を持って互いに防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はおらず学ぶ機会はないが、管理者は教えられる準備はしている。そのような事例があった際は学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、リーダーにて十分な説明を行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、意見要望等は聞いており、職員共有をしている。事柄により反映をしている。	家族面会は、コロナの感染状況により、対応している。職員は、家族とLINEを使用して情報提供や情報収集し、支援に反映させている。家族アンケートには「家族への連絡もきめ細かく、感謝」との言葉がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時のヒアリング、また定期で行う人事考課面談にて意見交換をしている。法人としては年1回、ネット上での職員アンケートを実施している。	会議などで意見を述べる機会はあるが、管理者の性格もあり、管理者から話しかけるなど、普段から言い易い環境がある。管理者は、職員が考えた提案や要望を把握し、ホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、実績、勤務状況等をもとに人事考課評価を行い昇給、賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や目標にそうよう法人内研修を実施している。またキャリアパス対応生涯研修やその他外部の研修会の参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会において外部や同業者との交流につなげている。また、GH部会等で意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。しかし今年度もコロナ禍の変動によりその機会は少なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者は当然不安な気持ちな為、特に寄り添うケアを大事に心掛けている。これまでの本人の様子や生活歴、家族の要望をしっかりと聞き取りケアプランに反映し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族が困っていること、不安や要望等を聞き入れ、職員共有のもと家族へも寄り添うことを心掛けている。来所時や電話等で話す機会がある際は現在の生活の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況をしっかり確認したうえで今必要としている支援を見極め対応することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶ場を通じて互いに支えあい、共同生活の中で共に尊重しあい学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを通して本人の様子をお伝えしている。またコロナ禍が続いている状況下で制限はあるが、LINE面会にてお話ができるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こしばらくはコロナ制限下により思うようにできてない。一部の利用者は知人から電話や手紙がくることもある。	面会は制限中だが、知らずに訪ねて来る友人に窓越し面会を行い、関係が継続できるように柔軟に支援している。家族と一緒に受診や、冠婚葬祭行事に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から利用者同士の関係性を把握している。孤立しないよう職員は常に関わりを持ちながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の受け入れ先との情報共有している。法人内外のサービス事業所、または病院等に移った後も、家族、利用者との関係を継続し、必要に応じて相談、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から希望や意欲を探り、それに沿ったケアを心掛けている。現在は沿えないことが多くなっているが、極力できることは寄り添うように努めている。	利用者一人ひとりの性格を踏まえた話し方をし、発する言葉から意向を汲み取るように努めている。聞き取った「思い」は、電子カルテに記入して共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のこれまでの生活歴、生活環境、馴染んできた事を、入居前に家族に記入していただき、また日々の会話から把握しケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康、状態観察に合わせたケアを心掛けながら、その方の有する力を把握し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、また必要時のケアカンファレンスの中で、現状を踏まえながら意見やアイデアを出し合い反映している。またサービス担当者会議において、本人、家族と今の課題とケアのあり方を話し合いケアプランを作成している。	担当職員が中心となり、家族の思いを聞き取ってモニタリングを行い、計画作成担当者が、その結果を踏まえて介護計画を作成している。家族アンケートでは、回答者全員が「一緒に話し合っている」と答えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化や気づき等を個別記録に入力し、必要に応じて職員間で情報を共有しケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	制限が続く中で、余暇等その時々ニーズに合わせ柔軟な対応を心掛けている。また、法人内のあらゆる専門職に相談しサービスの多機能化への取り組みを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナ制限下で思うように活用されていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向を大切に希望機関の受診を行っている。事業所かかりつけ医を希望の方は月2回の訪問診療時に情報提供している。その他の受診については伝達用紙を記入し情報を伝えている。	ホーム協力医をかかりつけ医に選択し、月2回の訪問診療があり、看護師が健康管理をしている。他科受診は家族対応で、受診時には「伝達用紙」で情報を提供し、家族から情報を収集して支援に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や気づき等の情報を看護師への申し送りノートに記入。Ns出勤時に確認、指示をもらう。必要に応じて主治医へ報告する。突発を要する時の為に法人内看護師とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、早期退院に向けて病院相談員と定期的に情報交換や相談を行っている。家族へもその都度情報共有し安心できるような連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に意向を確認しており、サービス担当者会議にも再度意向を確認している。また、医療行為が必要と場合はGHでの生活が難しいとの事を説明しており、その際は法人内の特養等の他事業所と情報共有しともに支援に取り組める体制をとっている。	入居時に「重度化指針」を示し、説明して同意を得ている。ホームでできる限りの支援をし、話し合いを重ね、多くの場合同法人の特養など、最も適した住まいへの住み替えを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で定期的に緊急時対応の研修会を行っている。各マニュアルは事業所でまとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と防火点検を行っている。水害時避難訓練も実施しており避難場所も周知している。地域へは総代を通して協力体制を築いている。	年2回の避難訓練(日中・夜間・火災・水害・地震想定等)を実施し、通報、初期消火、垂直避難の訓練をしている。訓練時には地域に知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格、生活歴を把握しており、その方の誇り、プライバシーに配慮しながら寄り添う言葉かけに努めている。	利用者の呼称の基本は「さん付け」で、それ以外の反応の良い呼び方には家族の了解を得ている。フロア内の申し送りには、聞かれないように声を潜めたり、個人名を出さないよう、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話から、本人の希望や思いを聞いて、自己選択、自己決定ができるよう心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを崩さずに、会話の中でその日その時の希望を伺いながら、出来る限りそった支援を心かけており、なるべく業務優先にならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝ご自分で服を選び整容も行っていただいている。ご自分で難しい方は職員が言葉をかけながら支援している。理美容は本人希望で訪問理美容または馴染みの理美容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決めや食材準備など、出来ることを役割として本人の力を活かしている。職員と一緒にやることでコミュニケーションがとれ楽しく食事が出来る環境作り心かけている。	職員は、食事場面が、利用者が力を発揮できる機会と理解しており、利用者に聞きながら献立を決めている。食事場面の一連の工程を、利用者が手伝っている。毎日晚酌を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量、食事摂取量の把握をしている。1人ひとりに適した栄養、量、水分がバランスよく摂取できるよう毎食の献立作成をしている。また月に1度、法人内の管理栄養士に献立を見てもらい指導をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で口腔ケアをしていただいている。個々の状態によりお手伝いをさせていただいています。義歯は夜間、専用洗浄剤に浸けて保管し清潔を心かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣やリズムを把握しており、介助が必要な方にはプライバシーに配慮した声掛けに心かけている。その方の気持ちを優先した方法を検討し、共有しながら実践することに努めている。	排泄自立の利用者が多いが、さりげない見守りを行い、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。トイレが分からない時は、居室からトイレまでの動線の床に、矢印を貼る工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排便周期を把握している。便秘解消の為、発酵飲料や乳製品の提供と、適度な運動を行えるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望や要望にそった入浴を行っている。また、羞恥心に配慮しリラックスして入浴を楽しんで頂けるように心かけています。	毎日入浴準備をし、毎回湯を代えている。毎日の入浴や、希望時間の入浴にも対応可能である。拘りのシャンプーなどを使う利用者もいる。柚子湯など、季節感を味わう工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を尊重し、その時々状況に応じて自由に休息していただいている。夜間は安眠を優先できるよう心かけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の既往歴、現病を把握し、服用している薬の内容の理解に努めている。また、症状の変化等に気づき対応できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や特技を生かした余暇やイベントに取り組んでいる。また、喜びや楽しみがある日常になるよう心かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	このコロナ禍において、なかなか希望にそった外出支援が出来ていない。買い物支援も出来ず、現在は施設周辺の散歩、小人数、短時間でのドライブ程度の支援しか行えない。	外出は自粛中であるが、日常的に周辺に散歩に出かけている。地域の公園に、おやつを持って花見に出かけている。四季の花を見にドライブしたり、「家が見たい」との声に、ドライブで自宅近くまで見に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は家族了承のもと、本人管理で所持している。それ以外はお小遣いとして施設で預かり、使用状況は毎月、台帳と領収書を家族に郵送し報告としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい利用者へは出来る限りの支援はしている。また、LAIN面会を積極的に進めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木と畳のぬくもりを感じることができ、天窓から光が入り落ち着ける空間となっています。また中庭で家庭菜園をしたり、洗濯物を干したり、季節感、生活感を肌で感じることができる。	新型コロナウイルス感染症感染予防策として、今年度は視察なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい廊下の長椅子や中庭のデッキでお話したり、日向ぼっこをし、思い思いに過ごしていただけるよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、ご本人と一緒に、使い慣れたものや馴染みの物を置き、ご本人が居心地の良い居室になるよう工夫をしています。	新型コロナウイルス感染症感染予防策として、今年度は視察なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は段差がなく、全てフラットになっている。トイレ、浴室等は看板を掛け、居室は分かりやすく名前を貼っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200080		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームきら		
所在地	愛知県西尾市吉良町吉田山中6番地1		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2393200080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺に広がる田園と住宅、中規模のショッピングセンター、南方面には三河湾と、とてもどこかであり、季節感が感じられ、とても立地条件に恵まれた施設です。施設内は当法人のこだわりである木の香りとぬくもりを感じることができ、畳が敷かれた廊下はすごく癒されます。施設自体がとても懐かしく感じられる作りとなっています。また、近くには国宝のお寺もあり、吉良家がこの土地の収めていたことから歴史上でも有名な西尾市吉良町です。ここ3年、祭りや地域の行事の中止が続き、GHとしての地域の関わりがなかなか持てず交流が出来ない状況が続いています。とてももどかしいですが、我々職員は、「今だからこそできるより良いサービスの提供」を心掛け、日常を明るく元気に利用者様と向き合い、日々楽しく生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころのびのび からだいきいき いのちきらきら」という理念のもと、毎日を大切に過ごしていただけるサービス、ケアの実践に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ制限化の為、今年度もGH本来の地域との関りが難しく、職員が地域の店で買い物をしたり、回覧が来た時に町内会の方とお話する程度。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も外出自粛制限で地域住民の方と会う機会も作れず地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議も利用者や職員のみでの参加としており、関係各所に議事録を郵送としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各申請時や相談時等に連絡を取らせてもらっている。また、運営推進会議議事録で事業所状況の報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の法人内の学習会が継続している。また事業所内に「身体拘束適正化委員会」を設置。3か月に1度委員会を開き、話し合いの場を設けている。玄関施錠は夜間のみで日中は施錠なしで対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の法人内の研修を実施、各自が学べる機会を設けており、日々職員は意識を持って互いに防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はおらず学ぶ機会はないが、管理者は教えられる準備はしている。そのような事例があった際は学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、リーダーにて十分な説明を行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、意見要望等は聞いており、職員共有をしている。事柄により反映をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時のヒアリング、また定期で行う人事考課面談にて意見交換をしている。法人としては年1回、ネット上での職員アンケートを実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、実績、勤務状況等をもとに人事考課評価を行い昇給、賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や目標にそうよう法人内研修を実施している。またキャリアパス対応生涯研修やその他外部の研修会の参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会において外部や同業者との交流につなげている。また、GH部会等で意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。しかし今年度もコロナ禍の変動によりその機会は少なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者は当然不安な気持ちな為、特に寄り添うケアを大事に心掛けている。これまでの本人の様子や生活歴、家族の要望をしっかりと聞き取りケアプランに反映し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族が困っていること、不安や要望等を聞き入れ、職員共有のもと家族へも寄り添うことを心掛けている。来所時や電話等で話す機会がある際は現在の生活の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況をしっかり確認したうえで今必要としている支援を見極め対応することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶ場を通じて互いに支えあい、共同生活の中で共に尊重しあい学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを通して本人の様子をお伝えしている。またコロナ禍が続いている状況下で制限はあるが、LINE面会にてお話ができるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ここしばらくはコロナ制限下により思うようにできてない。一部の利用者は知人から電話や手紙がくることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から利用者同士の関係性を把握している。孤立しないよう職員は常に関わりを持ちながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の受け入れ先との情報共有している。法人内外のサービス事業所、または病院等に移った後も、家族、利用者との関係を継続し、必要に応じて相談、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から希望や意欲を探り、それに沿ったケアを心掛けている。現在は沿えないことが多くなっているが、極力できることは寄り添うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のこれまでの生活歴、生活環境、馴染んできた事を、入居前に家族に記入していただき、また日々の会話から把握しケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康、状態観察に合わせたケアを心掛けながら、その方の有する力を把握し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、また必要時のケアカンファレンスの中で、現状を踏まえながら意見やアイデアを出し合い反映している。またサービス担当者会議において、本人、家族と今の課題とケアのあり方を話し合いケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化や気づき等を個別記録に入力し、必要に応じて職員間で情報を共有しケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	制限が続く中で、余暇等その時々ニーズに合わせ柔軟な対応を心掛けている。また、法人内のあらゆる専門職に相談しサービスの多機能化への取り組みを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナ制限下で思うように活用されていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向を大切に希望機関の受診を行っている。事業所かかりつけ医を希望の方は月2回の訪問診療時に情報提供している。その他の受診については伝達用紙を記入し情報を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や気づき等の情報を看護師への申し送りノートに記入。Ns出勤時に確認、指示をもらう。必要に応じて主治医へ報告する。突発を要する時の為に法人内看護師とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、早期退院に向けて病院相談員と定期的に情報交換や相談を行っている。家族へもその都度情報共有し安心できるできるよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に意向を確認しており、サービス担当者会議にも再度意向を確認している。また、医療行為が必要と場合はGHでの生活が難しいとの事を説明しており、その際は法人内の特養等の他事業所と情報共有しともに支援に取り組める体制をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で定期的に緊急時対応の研修会を行っている。各マニュアルは事業所でまとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と防火点検を行っている。水害時避難訓練も実施しており避難場所も周知している。地域へは総代を通して協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格、生活歴を把握しており、その方の誇り、プライバシーに配慮しながら寄り添う言葉かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話から、本人の希望や思いを聞いて、自己選択、自己決定ができるよう心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを崩さずに、会話の中でその日その時の希望を伺いながら、出来る限りそった支援を心かけており、なるべく業務優先にならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝ご自分で服を選び整容も行っていたいでいる。ご自分で難しい方は職員が言葉をかけながら支援している。理美容は本人希望で訪問理美容または馴染みの理美容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決めや食材準備など、出来ることを役割として本人の力を活かしている。職員と一緒にやることでコミュニケーションがとれ楽しく食事が出来る環境作りに心かけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量、食事摂取量の把握をしている。1人ひとりに適した栄養、量、水分がバランスよく摂取できるよう毎食の献立作成をしている。また月に1度、法人内の管理栄養士に献立を見てもらい指導をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で口腔ケアをしていただいている。個々の状態によりお手伝いをさせていただいています。義歯は夜間、専用洗浄剤に浸けて保管し清潔を心かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣やリズムを把握しており、介助が必要な方にはプライバシーに配慮した声掛けに心かけている。その方の気持ちを優先した方法を検討し、共有しながら実践することに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排便周期を把握している。便秘解消の為、発酵飲料や乳製品の提供と、適度な運動を行えるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望や要望にそった入浴を行っている。また、羞恥心に配慮しリラックスして入浴を楽しんで頂けるように心かけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を尊重し、その時々状況に応じて自由に休息していただいている。夜間は安眠を優先できるよう心かけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の既往歴、現病を把握し、服用している薬の内容の理解に努めている。また、症状の変化等に気づき対応できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や特技を生かした余暇やイベントに取り組んでいる。また、喜びや楽しみがある日常になるよう心かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	このコロナ禍において、なかなか希望にそった外出支援が出来ていない。買い物支援も出来ず、現在は施設周辺の散歩、小人数、短時間でのドライブ程度の支援しか行えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は家族了承のもと、本人管理で所持している。それ以外はお小遣いとして施設で預かり、使用状況は毎月、台帳と領収書を家族に郵送し報告としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい利用者へは出来る限りの支援はしている。また、LAIN面会を積極的に進めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木と畳のぬくもりを感じることができ、天窓から光が入り落ち着ける空間となっています。また中庭で家庭菜園をしたり、洗濯物を干したり、季節感、生活感を肌で感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい廊下の長椅子や中庭のデッキでお話したり、日向ぼっこをし、思い思いに過ごしていただけるよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、ご本人と一緒に、使い慣れたものや馴染みの物を置き、ご本人が居心地の良い居室になるよう工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は段差がなく、全てフラットになっている。トイレ、浴室等は看板を掛け、居室は分かりやすく名前を貼っています。		